

## 連携事業の進行方針について

## 《 Step1:各事業の現況整理 》

ワークシート&スケジュールの進捗状況を基に、ワーキンググループ(+関係課長)、または各市町の担当課において、定住自立圏の取組を、「**事業実行の視点(振返りシート項目⑨、⑩)**」と「**人材育成の視点(振返りシート項目⑪)**」から改めて考え直してもらう。

**事業実行の視点**

- ・振返りシート項目⑨「実現可能性」および⑩「広域連携のメリット」の2軸により検証
- ・ワーキンググループ(+関係部課長)で各項目について1～4のいずれかを選択  
(1、2の場合はその理由を付してもらう。)

・**振返りシート項目⑨「実現可能性」 評価4段階**

- 4…実現可能であり、関係者との調整も進んでいる(or 既の実現している)
- 3…実現可能性はあるが、関係者との調整等が今後必要となる
- 2…実現可能性が低く、当初目的の達成は困難
- 1…実現可能性は考えられず、当初目的の達成は不可能

・**振返りシート項目⑩「広域連携のメリット」 評価4段階**

- 4…市町単独で行うより連携した方が全体的な効果が期待できる(or 既に一部で連携が行われている。)
- 3…連携による効果は期待できるが、その範囲は一部の地域や年齢の者に限定される
- 2…連携による効果が小さく、現行と大差がない
- 1…連携による効果が期待できず、市町単独で行った方が効果がある

**人材育成の視点**

- ・定住自立圏の場について、振返りシート項目⑪「人材育成(情報交換)の場としての有用性」の視点から検証
- ・市町の担当課ごとに1～4のいずれかを(1、2の場合は理由を付してもらう。)

・**振返りシート項目⑪「人材育成(情報交換)の場としての有用性」 評価4段階**

- 4…2市1時間で情報交換や認識の共有を行ったり、協議を行う必要のあるテーマが存在する(定住自立圏の場は人材育成に有効となる)
- 3…2市1時間で情報交換や認識の共有を行ったり、協議を行う必要のあるテーマは存在しないものの、2市1町担当間の交流の場は必要だと感じている(定住自立圏の場は今後の人材育成に有効となる可能性がある)
- 2…定住自立圏の他に職員交流の場があり、そちらで十分情報交換等ができていない(定住自立圏の場は人材育成にあまり有効とならない)
- 1…担当分野について2市1時間の交流、情報交換の場は必要ない(定住自立圏の場は人材育成に有効とならない)

## 《 Step2: 各事業の今後の方針について検討 》

Step1の事業実行の視点の結果を以下の図に当てはめた結果が、今後の方針となります。  
この結果をもとに、「今後の事業の進め方」について検討します。

		項目⑨ 実現可能性			
		4	3	2	1
項目⑩ 広域連携の メリット	4	A	B	E	J
	3	C	D	G	L
	2	F	H	I	N
	1	K	M	O	P

《上の図によって判定した「今後の方針」》

A,B,C,D … **継続**

「定住自立圏の」事業として、事業の継続もしくは実現に向けた検討を進める。

E,J … **一部見直しのうえ継続**

現在検討されている事業内容を再点検し、一部修正の上、事業の実現に向けた検討を進める。

- ・定住自立圏の新規案として再提案
- ・定住自立圏以外の広域連携の枠で検討 など考えられる。

上記以外 … **見直し**

「定住自立圏として」の検討を一旦見直す。

⇒ただし、人材育成の視点の状況や、2市1町の協議による事務局意見、共生ビジョン懇談会における委員意見を踏まえた上で、次年度のワーキンググループ会議において継続の方針を最終的に判断する。